

RAIS[®]

ART  OF FIRE

RAIS VISIO3

取扱説明書







RAIS VISIO3

目 次

序	4
保証・仕様	4
エアークントロールレバー	5
コンベクション（対流）	6
煙突	7
据え付け/据え付けに関する指示	8
据え付けに関する指示	9
ビルトイン式据え付けのための寸法	10
エアースystem	16
ストーブの使用に関する指示/燃料	17
薪の乾燥と保管	18
薪ストーブの使い方	19
点火と薪の補給	20
掃除と手入れ/燃焼室の掃除	23
ガラスの清掃	24
燃焼室の清掃/煙道の掃除	25
パーツリスト	27
トラブルシューティング	28
自閉式ドアにする方法	30

序

ライス薪ストーブをお買い上げいただき、ありがとうございます。この機種は、断続的薪焚きストーブとして、HETAS社の認定を受けています (HEASは、固形燃料焚きストーブなどに関する政府公認の認定機関です)。

ライス薪ストーブはありきたりの暖房器具ではありません。デザインや品質に対する持ち主のセンスまでわかる製品です。

この薪ストーブを最大限にご利用いただくためには、据え付けや運転の開始前に、この取り扱い説明書を読み通していただくことが重要です。

保証内容や薪ストーブに関する一般的なご質問の際には、生産番号を示していただく必要がありますので、生産番号は重要です。今、この場で、ストーブの生産番号を記録してください。生産番号はストーブの底面の奥(後方)にあります。

保証

保証が及ぶのは:

- 製造的な誤りによる機能不全 (要文書による説明)
- 欠陥材料 (要文書による説明)

ただし、以下のものは、保証の対象外です:

- ドアとガラス・ガスケット
- セラミックガラス
- 火室のライニング (裏張り)
- ストーブ表面構造の外観
- ステンレススチールの色調の変化や表面的な艶 (つや) の喪失
- 膨張時のノイズ

次の場合は、保証は無効になります:

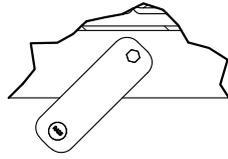
- 過剰燃焼の結果起きた損傷
- 外的要因や不適切な燃料を燃やした結果起こった損傷
- 法律で定められた指示や当社の指示を守らない据え付けの場合、改造が加えられていた場合
- サービスや手入れに関する規定を守っていただけなかった場合

仕様

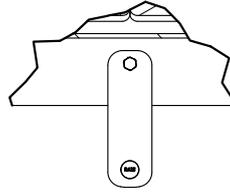
	RAIS VISIO3
出力kW	7
出力 (最小 - 最大)	5-9
暖房面積 (㎡)	75-120
ストーブ寸法 (幅、奥行き、高さ) mm	759-564-1616
上の燃焼室の寸法 (幅、奥行き、高さ) mm	533-333-466
最適の薪投入量 (kg) 約30cmの薪2~4本	1.5-2.5
最小ドラフト(最小通気量) (パスカル)	-12
重量 (ソケット (重し受け口)) を含む kg	233
効率 %	80

エアークントロールレバーの調整

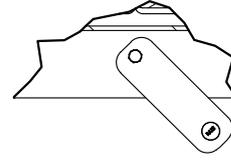
ポジション1



ポジション2



ポジション3



着火と薪の補充



環境に優しい火

最適な燃焼を行うための5つのアドバイス: 経済性と環境を配慮した常識

1. 効率の良い点火方法: 着火材を利用してください。エアークントロールレバーを開くと、ストーブに空気を大量に送りこまれるので、薪から発生するガスは迅速に燃焼します。
2. 一度にたくさんの薪を燃さないようにすれば、理想的な燃焼状態が得られます。新しく薪を追加したときは、必ず空気を多めにおくります。
3. 炎が消えたら、エアークントロールレバーを調整して、給気量を減らします。
4. 赤く輝く熾き火(炭)だけが残ったときは、給気量を炭が燃えるのに必要な程度までさらに減らして大丈夫です。給気が減ると炭はゆっくり燃えるので、煙突から逃げる熱のロスも減らすことができます。
5. よく乾燥させた薪(水分含有量が15~20%)以外は使わないでください。

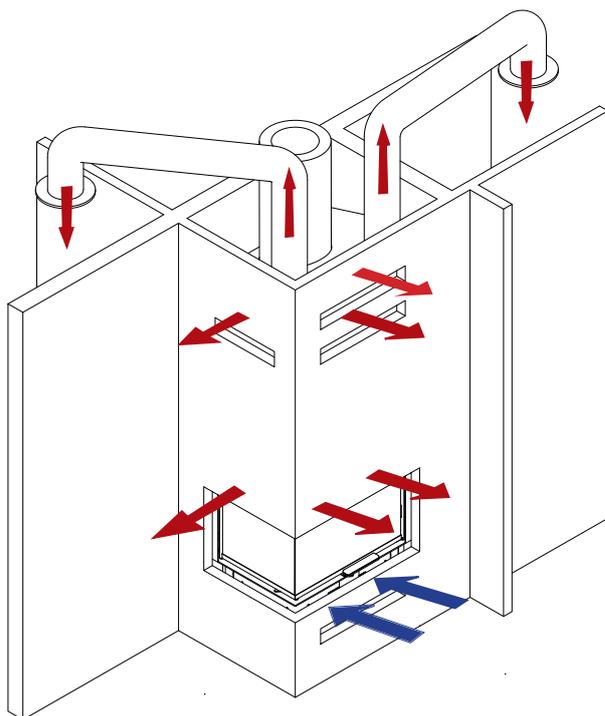
■ コンベクション（対流）

VISIO3はコンベクション型のストーブです。コンベクションとは対流のことで、暖気流が確実にかつ均一に部屋中に広がるという意味です。ストーブ下部から取り込まれた冷たい空気は、燃焼室に沿って走るコンベクションチャンネルを通過します。ここを通過する間に暖められた空気が、ストーブ上部のダクトから室内に放出され、それが部屋全体をくまなく回る暖かい空気の対流を作ります。

注意事項：運転中は、ストーブの外側はすべて非常に熱くなりますので、くれぐれもご注意ください。

インサートは非常に有効な使い方ができます。熱い空気の出るノズルと管をストーブのトップにとりつけると、熱を別の部屋に「移動させる」ことができます。

設置場所や出口孔の位置に配慮します。求められているスペースを確保し、外側に出ている孔が塞がれることがないようにしてください。ストーブドアの上方や対流出口孔の上方では、壁が色落ちする可能性があるかもしれません。そのような損傷については責任は負いかねます。



■ 煙 突

煙突は、ストーブを機能させるための駆動力のようなものです。ストーブの性能を存分に発揮させるには、適切なドラフト(14~18Paパスカル)を発生させなければなりません、そのためには、煙突が十分高くなければなりません。ドラフトが正しければ、燃焼によって生成する物質を取り除け、ストーブ燃焼中に煙が室内に逆流するトラブルも避けられます。

既存の煙突を利用して据え付ける場合、その煙突は、健全で、ひびや裂け目がなく、家の中に煙が入って来ないものでなければなりません。

既存の煙突にストーブを取り付けるときは、据え付け直前に、煙突が詰まっていないこと、掃除がしてあることを確認してください。ストーブがオープンファイヤーのあった場所に取り付けられる場合は、ストーブの取り付けから一ヶ月後にもう一度煙突をチェックして、詰まっていないか、すずが落ちてないかを調べるべきです。

シングル金属煙突は、ストーブと煙突の連結部分に使うには適していますが、煙突全体に使うには適していません。煙突と連結管の直径は最低150mm必要で、そのサイズは、ストーブ出口の受け口(ソケット)(直径150mm)より小さいものは使用できません。曲がり部分の角度は、煙突、連結管ともども45°以下でなければなりません。曲がり角度が90°のものは、極力使わないでください。

燃えやすい物を、ファイアーブレース、壁、煙道を通して熱が発散してくる場所の近くに置かないでください。可燃性の物質があるところにこのストーブを取り付けるときは、離隔距離を守って据え付けなければなりません。

過剰なドラフトが発生することが判明した煙突では、調整可能なフルー・ダンパーかドラフト・スタビライザー(ドラフト安定器)を取り付けてください。調整可能なダンパーは、煙道を完全に閉じてしまうものではなく、「閉」の位置にしても、煙道やパイプの総断面積の最低20%が開き続けていられるようなものでなければなりません。

煙突や連結管を掃除するときのために、たとえば煤掃除などのためのメンテナンス用点検ドアなども整えてください。また、煙道が二つある煙突のドラフト状態についても、精通しておいください。

煙道出口の差し込み口の直径は150mmです。

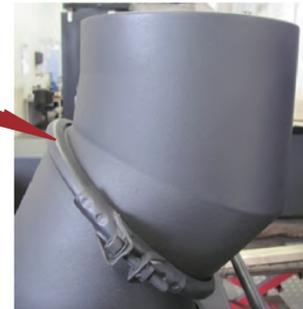
ドラフトが強いときは、煙突や煙道にドラフト安定装置(スタビライザー)を取り付けるべきです。その際大事なことは、ゲートを閉じて、最低20㎡の空気が通り抜けられる部分を確保することです。さもないと、燃料のエネルギーが最適利用されません。煙突の状態について気がかりなことが起きたときは、必ず煙突掃除業者に連絡してください。

煙突や連結管を掃除するときのために、たとえばすずの掃除などメンテナンス用の点検ドアは簡単に開けるようにしておかなければなりません。

また、煙道が二つある煙突のドラフト状態についても、精通しておいください。

本ストーブには直径200mmの煙道出口スピゴットと一緒に供給されてきます。追加導入できる直径180mmの出口スピゴットも、本ストーブでの仕様が承認されています。

煙道スピゴットはトップ出しから後ろ出しに変更可能です。出口の締め具(ランプ)をゆるめて、好みの締め具合に調整することができます。



注意!

もしストーブが、後ろ出しで据え付けられるなら、後ろの壁は、レンガ壁など非可燃性でなければなりません。

ドラフトが強い場合は、煙突や煙道にドラフト安定装置(ステイビライザー)を取り付けるべきです。その場合大事なことは、ゲートを閉じて、最低20 cm²の空気が通り抜けられる部分を確保することです。さもないと、燃料のエネルギーが最適利用されません。煙突の状態について気がかりなことが起きたときは、必ず煙突掃除の専門業者に連絡してください。

メンテナンス用の点検ドアの周辺は、きちんと空けておかなければなりません。ストーブ、煙道、フルーカラーの清掃に必要なアクセスを必ず確保してください。

■ 据え付け距離

ストーブ設置場所脇の壁材が可燃性物質かどうかについては、建築施工主や役所に問い合わせ、見極めてください。

ハース(炉床)は、ストーブの重量に耐えられなければなりません。また、煙突は、(ウォールブラケットや天井サポート板など)煙突専用のもので支えられなければなりません。ストーブの重量は、この取り扱い説明書の「仕様」に記載してあります。

ストーブは必ず、英国の現行建築規則技術仕様書Jの規約を満たすサイズや構造の非可燃性の炉床に据え付けられなければなりません。

ストーブを木の床に設置する場合は、最低12mm厚の非可燃性の物質で床をカバーしなければなりません(英国建築規則技術仕様書J)。被う範囲は、ストーブの手前では225mmまで、両側では(燃烧室ドアから測って)それぞれ150mmのところまでです。

炉の下方、周囲、上方にある可燃性物質との間隔、および炉に隣接する壁との間隔は、英国建築規則技術仕様書Jの可燃性物質との分離規定、および本マニュアルの指示に従ったものでなければなりません。

家具など可燃性の物は、指定の離隔距離内に絶対に置かれることがないように、確認しなければなりません(火災の危険があります)。

■ 据え付け

注記: コンベクション・システムの吸い込み口、吐き出し口の位置を決めなければなりません。対流ホールに関する領域条件を満たさなければなりません。熱い空気が上るため、ドアや対流空気出口の上方の壁は変色するかもしれません。ライス社は、据え付け完了後の建物への損傷については責任を負わないことをご了承ください。

ストーブは、法令や条例に基づいて据え付けなければなりません。

改造を施すことは禁止されています。

ストーブが正常に燃焼するためには、ストーブを設置する部屋には、新鮮な空気が必要となります。機械的な排気装置(例えばキッチンの排気フード)などがあると、ストーブに使用する空気の量が減ってしまいます。通気格子(エアコンの吹き出し口のようなもの)を取り付けるときは、ストーブへの給気が損なわれないような位置を選んで取り付けてください。あるいは、ダンパーに管を取り付け、ストーブに外気を直接供給できるようにする方法もあります。

ストーブは耐熱建材の上に設置し、可燃性物質からも安全距離を保たなければなりません。ライスの新ストーブの設置場所を選ぶ時は、別の部屋にも暖かさを回せるかどうか配慮すると、ストーブを最も有効活用できます。

ストーブが届いたら、傷などの有無を点検しなければなりません。

■ 据え付けに関する指示

注記: コンベクション・システムの吸い込み口、吐き出し口の位置を決めなければなりません。対流ホールに関する領域条件を満たさなければなりません。熱い空気が上るため、ドアや対流空気出口の上方の壁は変色するかもしれません。ライス社は、据え付け完了後の建物への損傷については責任を負わないことをご了承ください。

ストーブは、届いたらすぐに欠陥がないかどうか調べてください。

ストーブをパレットから持ち上げ、据え付け場所に運びます。このとき、据え付け場所の床には、予め適切な対策を施しておいてください。

ストーブは、調整ネジで調整することで、ガラスドアの低い辺が水平になり、ドアを締めたときドア表面が垂直になるようになります。

フロントプレートとドアをストーブから外します。ドアガラスを傷つけないように気をつけてください。ハンドルの保護テープやプラスチックは付けておいてください。

非断熱性の連結管を、燃焼室内側にある煙道出口に取り付けます。大事なことは、連結管とストーブの間に漏れがないことです。連結部は適切なガスケットか化合物で密閉することをお勧めします。

断熱フルーパイプを取り付け、煙突につなぎます。

もし外気取り込みシステムを取り付ける選択をしたのなら、この時点でパイプの突出部に取り付けて下さい。

パイプを、コンベクション・システムの出口に取り付ける工事をする場合、先に進む前に、この段階で行って下さい。ストーブをパネル壁あるいはレンガ壁に取り付ける準備ができました。

壁を作り、塗装し終えたら、フロントとカバーを再び取り付けます。プラスチックの保護材やテープはすべて取り除いてください。

フロントプレートは、壁の最大厚さに調整して工場から出荷されています。トップと底のボルトは緩く止めてあります。フロントをそっと壁の方に押し込みます。閉めた状態で、フロントが壁およびガラスドアと平行かどうか確かめ、必要なら、フロント部を調整してください。トップと底のボルトを締めます。

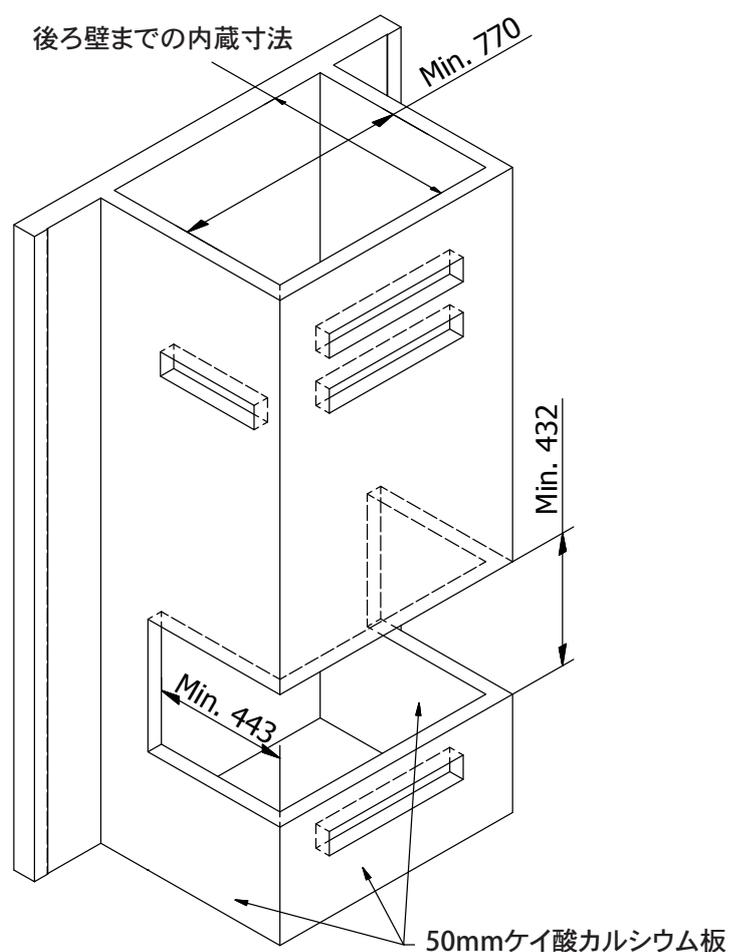
■ ビルトイン式据え付けのための寸法

壁開口部は、最低高さ432×幅770×奥行き443mm(内寸)
後ろ壁(50mmケイ酸カルシウム板)までの距離は最低607.5mm(内寸)

内蔵寸法(壁開口部)は外側のフロントカバー(アクセサリ)なしでストーブを据え付ける場合に適応します。フロントカバーを使うときは、壁開口部は、フロントカバーの厚みに合わせて増減して調整してください。

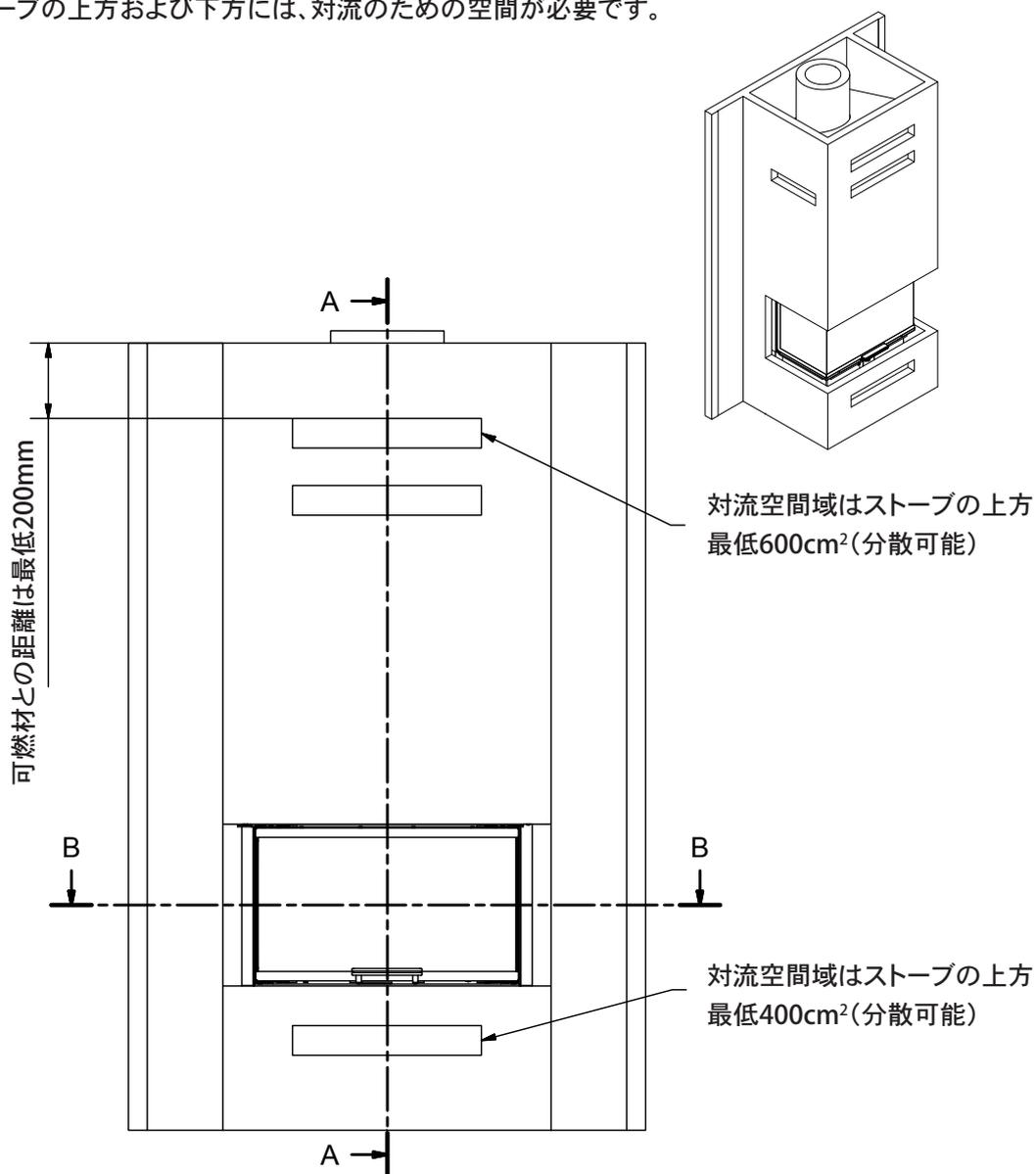
ファイヤープレース・インサートをはめ込むときは、スチールは熱くなると膨張するので、あそびを作るようにしなければなりません。

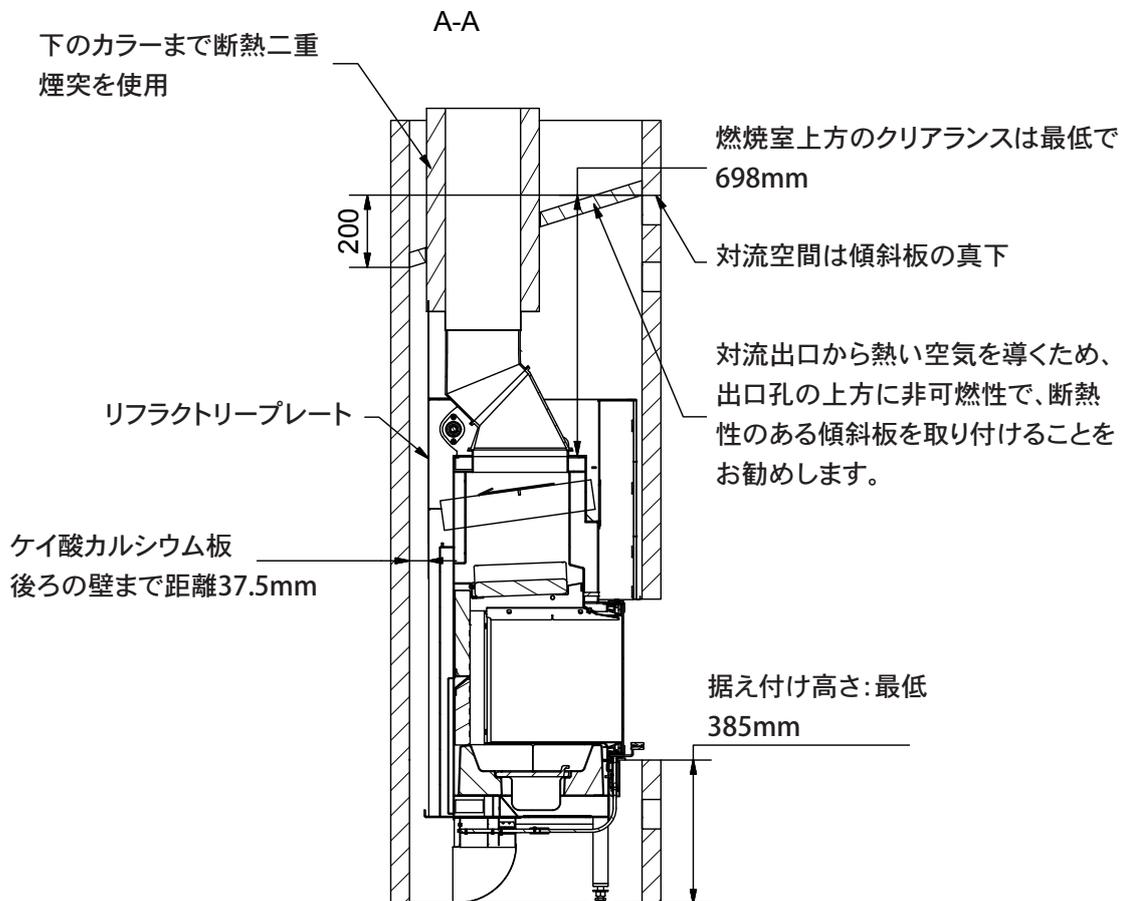
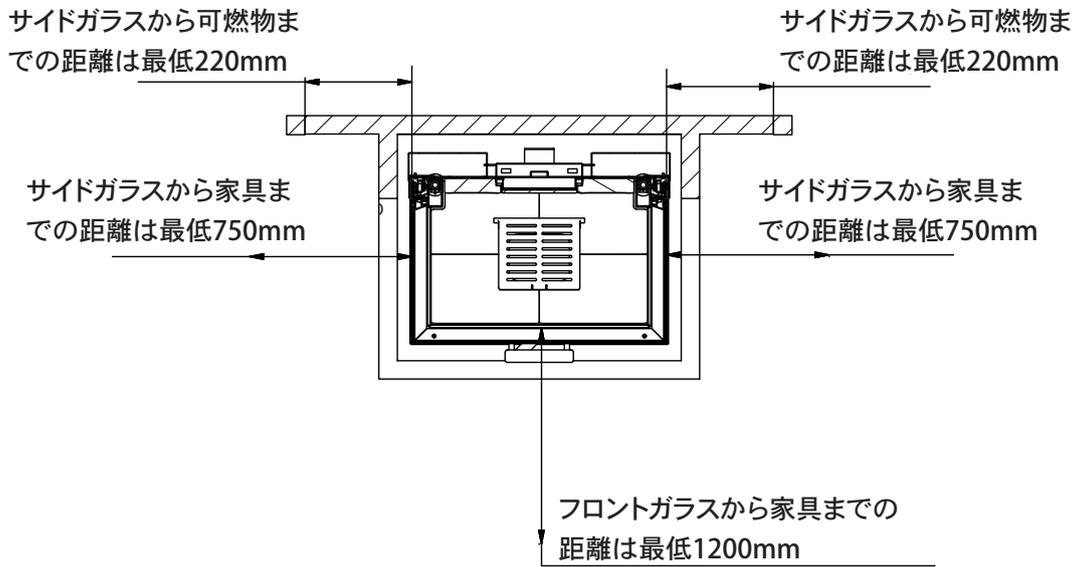
50mmケイ酸カルシウム板



■ 据え付け距離

ストーブの上方および下方には、対流のための空間が必要です。





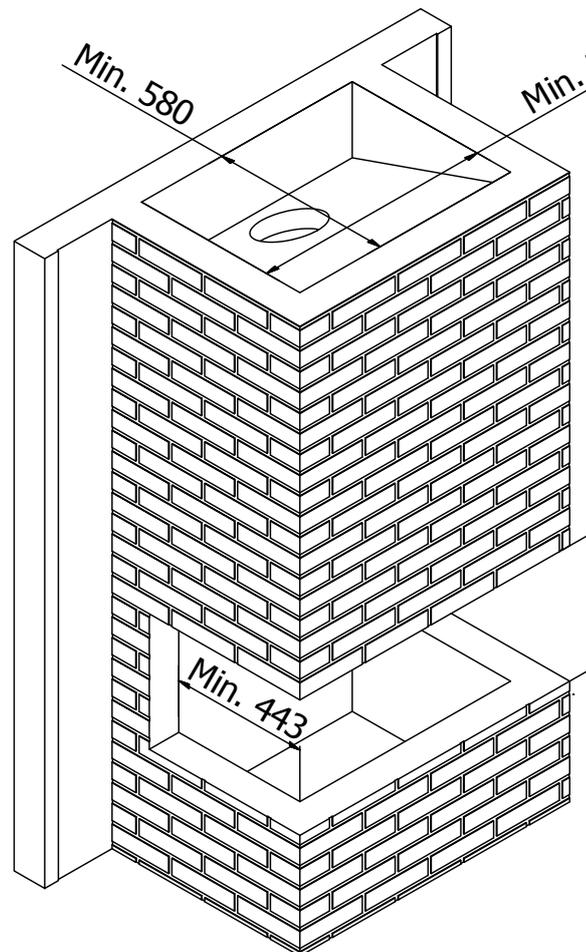
■ビルトイン式据え付けのための寸法

壁開口部は、最低高さ432×幅770×奥行き443mm(内寸)
後ろ壁(レンガ)までの距離は最低580mm(内寸)

内蔵寸法(壁開口部)は外側のフロントカバー(アクセサリ)なしでストーブを据え付ける場合に適応します。フロントカバーを使うときは、壁開口部は、フロントカバーの厚みに合わせて増減して調整してください。

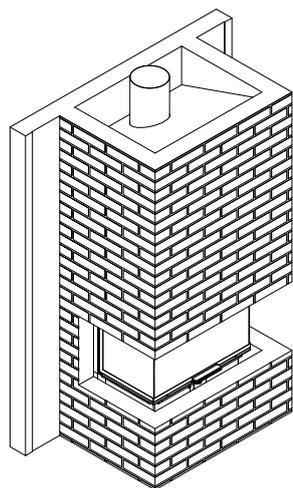
ファイヤープレース・インサートをはめ込むときは、スチールは熱くなると膨張するので、あそびを作るようにしなければなりません。

レンガ壁

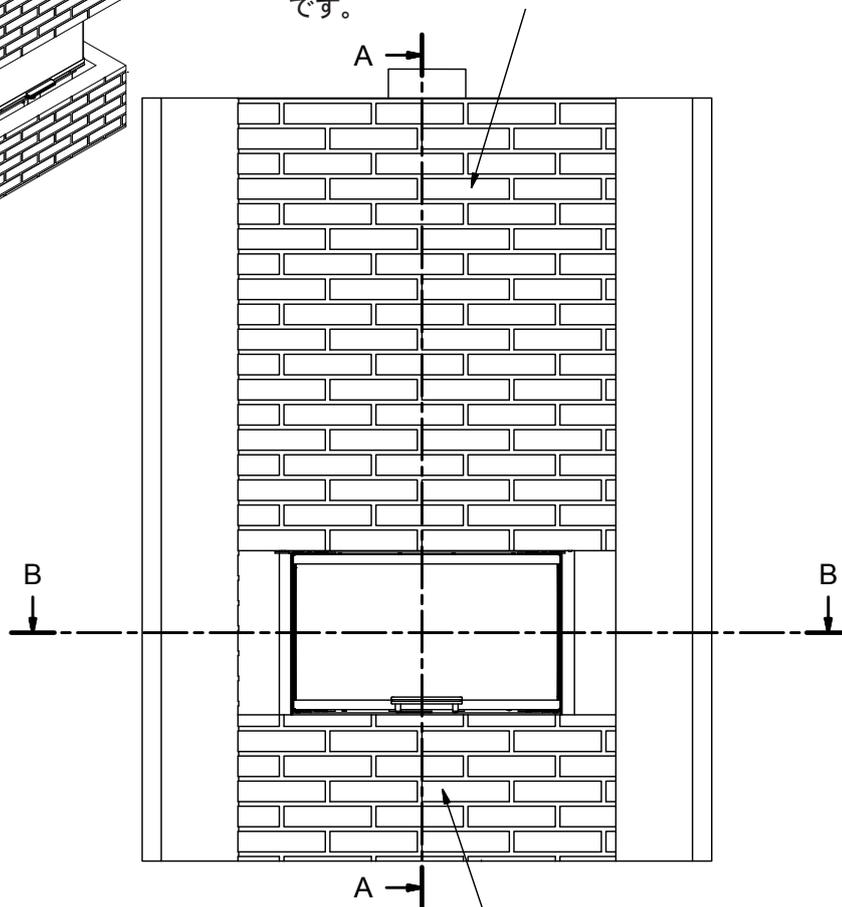


■ 据え付け距離

対流空間が不十分だと、レンガの壁は損傷を受けます。



お勧めする対流領域は最低 600cm^2 (分散可能)
対流の上端出口は、可燃材から最低 200mm 必要
です。



お勧めする対流面積は最
低 400cm^2 (分散可能)

サイドガラスから可燃物までの距離は最低220mm
ただし、対流空間がストーブの上方の場合。

サイドガラスから可燃物までの距離は最低220mm
ただし、対流空間がストーブの上方の場合。

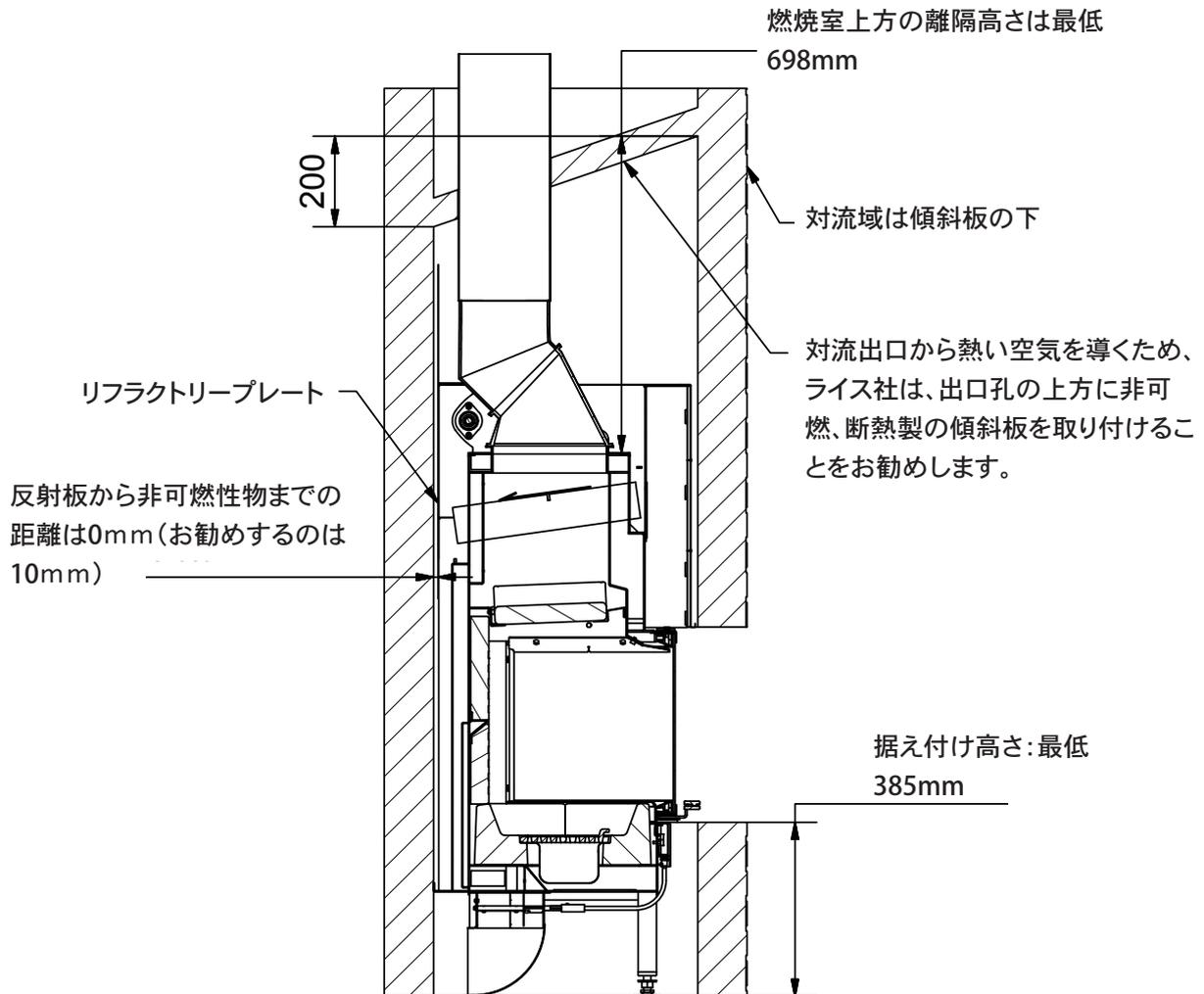
サイドガラスから家具までの距離は最低750mm

サイドガラスから家具までの距離は最低750mm

フロントガラスから家具までの距離は最低1200mm

B-B

A-A



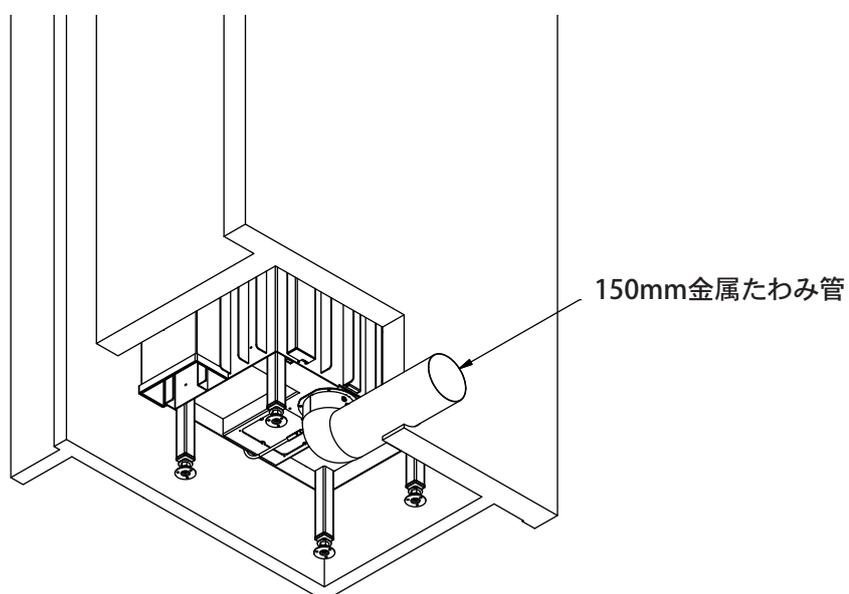
■エアースystem

エアースystemを取り付けるときは、エアークontrol・systemが必ず外気を供給するようにしてください。

エアースystemを機能させるためには、室内に負圧が起こらないことを確認しなければなりません。

対流のためのグレートを取り付けるのであれば、塞がっていないことを確認します。

エアースystem(アクセサリ)はストーブの底に連結します。



■ ストープの使用に関する指示

HETAS社の認証は、よく乾燥させた薪を焚くことが前提になっています。薪以外の燃料や、薪とその他の燃焼を組み合わせて焚いた使用は、HETAS社の認証の範疇に入っていません。

■ 燃 料

このストーブは、乾燥させ、割った薪に関する規格「EN 13240およびNS 3058」に従って設計、承認されています。薪の水分含有量は15～22%で、薪の最長は、燃焼室の幅から50～60mmマイナスした数字です。

湿った薪を焚くと、ススや環境公害物質が発生するだけでなく、燃料が不経済になります。切りたての木はその50～70%が水分なので、ストーブで焚くにはふさわしくありません。新しく伐採した木は、一年間乾燥させてから使ってください。直径が100mm以上の木は割って使います。薪のサイズにかかわらず、薪は常に皮のついていない面が最低一面は必要です。

塗料を塗った木、ラミネート加工した木、防水剤などを注入した木、表面が合成物質の木、塗装された廃材、木くずから作った板、ベニヤ板、家庭ゴミ、ペーパーブリケット、坑口炭は焚かないでください。理由は、強い臭いや毒を発生させるかもしれないからです。

こうした物や、先にお勧めした以上の量の薪をたくと、ストーブは過剰な熱にさらされ、その結果煙突の温度が上がり、効率が低下します。結果的に、ストーブと煙突に損傷が起こりえます。そうなると、保証は無効になってしまいます。

薪のカロリー値は、薪が含む水分量と密接な関係があります。湿った薪は熱価値が低いのです。そのわけは、薪中の水分が多いほど、その水分を蒸発させるためにエネルギーを食われてしまうので、その分、暖房用のエネルギーを損してしまうのです。

お勧めする燃料以外は使わないでください。

下記の表は薪の木種ごとのカロリー値です。2年間乾燥させたもので、残留水分は15～17%です。

樹種	乾燥薪kg/m ³	ブナやカシとの比較
シデ	640	110%
ブナとカシ	580	100%
トネリコ	570	98%
メープル	540	93%
カバノキ	510	88%
灌木性マツ	480	83%
モミ	390	67%
ポプラ	380	65%

木の種類に関係なく、1 kgの木からは同量の熱エネルギーが発生します。違うのは、1 kgのカバノキは1kgのモミノキよりもスペースをとらないということです。

■ 薪の乾燥と保管

木の乾燥には時間がかかるもので、適切な乾燥には2年ほどかかります。

アドバイス

- 木は鋸で切り、斧で割り、風通しと日当たりの良い場所に積み上げてください。家の南側が特に適しています。雨がかからないようにしてください。
- 薪は、手の幅ほど離して積んでください。こうすることで、薪の間を空気が通れるので、水分をいっしょに運んでいってくれます。
- 積んだ薪にビニールシートなどをかぶせないでください。水分が飛んでいきません。
- 薪は、焚く2、3日前に室内に入れておくとうまいでしょう。

■ 燃焼空気の制御

ライスのストーブには、片手の操作でダンパーを調整できるレバーが付いています。

一次燃焼空気は、一次燃焼空気ゾーン(赤く輝く燗き火の床)に送られます。この冷たい空気は、点火段階でのみ使われます。

二次燃焼空気は、ガス燃焼ゾーンに与えられ、高温加熱ガスを燃焼させるのに使われます(高温加熱ガスとは、予熱された空気のこと、ガラス面の掃除と燃焼に使われます)。二次燃焼空気は、燃焼室の下にあるダンパーから吸い込まれ、火室側面のチャンネルを通過するにつれて加熱され、高温の空気流となってガラスに向かって放出されます。これがガラスについた“煤”などを“食べてしまう”ので、ガラスはすすがれ、いつもクリーンなのです。

三次燃焼チャンネルは、燃焼室上部の奥の方に向かって見えますが、最後まで残ったガス残留物はここで燃焼します。

ポジション1とポジション2のあいだに間(ま)を設けたことで、燃焼用にも、高温加熱ガスの燃焼にも酸素が得られるようになり、薪の持つエネルギーが最も望ましい形で利用されるようになりました。炎が澄んだ黄色であれば、ダンパーは正しくセットされています。使い慣れるにつれ、正しいポジションがわかってくるでしょう。

ダンパーは完全に閉めないようにしてください。よくある間違いとしては、ダンパーを閉めるのが早すぎることです。ストーブが熱くなったと思ってダンパーを閉めてしまうのですが、煙突からは黒煙がのぼっているはずで、薪のカロリーもフルに利用できていません。

■ 室内の換気とストーブ

ストーブを据え付けた部屋に、何か強制排気ファン(換気扇や空気清浄機)が設置してあると、ストーブがくすぶって、煙や臭いが部屋に逆流するかもしれません。

ストーブを安全で効果的に運転するためには、絶えず十分な燃焼空気を供給していなければなりません。現行の建築規則により、ストーブを設置する部屋に恒久的な給気装置の設置が定められている国や地域では、そうした装置は絶対に閉めたり塞いだりしてはいけません。

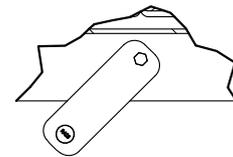
■薪ストーブの使い方

ライス2:1をお使いいただくときに大事なことは、薪の量を守ることです。最大投入量のマーク以上には、入れないでください。燃焼室の両脇のバーミキュライトプレートに「MAX LOAD」と刻み込んであり、高さにしておよそ19センチですが、これが最大投入量の印です。薪はこれ以上には入れないでください。

空気取り込みダンパーの調整は3段階に分けて行います。

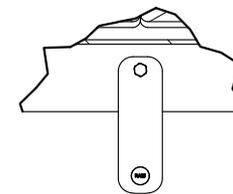
●ポジション 1

ダンパーはほぼ閉まっています。つまり、最低量の空気しか取り込めません。



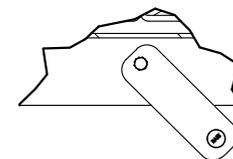
●ポジション 2

レバーを、最初にかちっという音がするまで引きます。この位置では、二次燃焼空気がフルに取り込めます。通常の焚きでは、このレバーはポジション1か2にセットしておきます。炎が透明で黄色いときは、ダンパーが正しく開いています。つまり、ゆっくりとした最適燃焼状態になっているということです。



●ポジション 3

次に「かちっ」と音がするまでレバーを引くとダンパーが全開し、一次、二次燃焼空気がフルに入ってきます。このポジションは、点火のときだけ使うもので、通常の運転では使いません。



■コントロール

ストーブを焚いた後、灰が白くて、燃焼室の壁にすすが付いていないときは、空気調整が正しく設定され、薪も十分乾いていたということを意味します。

■初めて焚くとき

火は小さく起こしましょう。そうすることで、ストーブを徐々に高温に馴らしてあげるので、これで、最善のスタートが切れ、損傷が起こるのを回避できます。

最初に火を焚いたとき、なじみない臭いや煙が立つのを感じるでしょう。これは無害です。塗料や加熱過程で硬化する物質からのもので、臭いはすぐに消えます。できれば、換気やドラフトを点検してください。いつまでも臭いが続くようであれば、下記の「重要 - 警告」のところをよく読んでください。

このプロセスにおいては、塗装された表面に触れないよう、気を付けてください。ドアの密閉シールがくっついてしまわないようにするため、ドアも定間隔で開け閉めしてください。

ストーブが暖まる／冷めていくとき、「カチカチカチ」という音がするかもしれません。これは物質が大きな温度変化を被るときにたてる自然な音です。

点火のときや火を保とうとするとき、絶対に液体燃料を使わないでください。どのような種類のものであってもだめです。爆発の危険があります。

ストーブ使用中は高温になるので、ストーブをいじるときは必ず防護手袋をはめてください。

長期間ストーブを使わなかった後に焚くときは、初めて焚くときと同じステップを踏んでください。

⚠ 警告

正しく据え付け、正しく運転・維持していれば、ストーブの中のおいが部屋に漏れてくることはありません。灰を捨てたり、薪を足したりするときには、多少のおいがするかもしれませんが、もしその臭いが長く続くときは、危険なことが起きているのかもしれません。放置せず、すぐに、下記の行動をとってください。

1. 部屋のドアや窓を開けて、室内の換気をする。
2. 火を燃え尽きさせるか、燃料を安全にストーブから取り出す。
3. 煙道や煙突が詰まっていないか調べる。必要なら掃除をする。
4. 臭いの原因が明らかになり、きちんと対処し終わるまで、火を焚いてはいけません。必要なら、専門家にアドバイスを求めてください。

⚠ 警告

ストーブが燃えているとき、エアロゾル・スプレーをストーブの上方や付近で使ってはいけません。

⚠ 重要**安全のために！**

子供、高齢者、虚弱な人がいる状況でストーブを使うときは、何かの拍子にストーブに接触することのないよう、フェンス等を使うなどして体制を整えてください。

■ 点火と薪の補給

注 意

空気取り込みのためのエアーシステムを連結させているときは、弁は開いていなければなりません。

火を付ける前にすること

薪ストーブの近くにあるドアか窓を開けます。もしストーブに煙突からの吹き戻しがある場合、新聞紙をひねって、それを上部バツフル板と煙突の間に置き、新聞紙に火をつけ、しばらく待っていると、煙突から吸い込む音が聞こえてきます。この音は、煙突のドラフトが起こった証ですから、これで室内に煙が吹き戻して入って来ることはなくなります。

点火はトップダウンで

- ドアを上ロックされるまで、開きます。
- 約1キロの薪(薪2本 写真1)を燃焼室の底に置きます。約1.2キロの乾燥した薪を焚き付けサイズに割ったもの(写真2)と着火剤を置きます。
- 点火します。(写真3と4)
- エアークントロールレバーをフルに開きます(ポジション3)。この間約15分。それからポジション2にセットします。
- ドアを閉めますが、1~2センチほど開けておいてください。
- 焚き付けに火がついたら、ドアを完全に閉めてください(写真5)。閉めるのは、煙突のドラフトの状態にもよりますが、3分から10分後に行います。
- 最後の炎が燃え終わり、赤く輝く熾き床ができます(写真6)。ここで、3~4本の薪(約2~2.5キロ)をくべます(写真7)。
- ドアを完全に閉めます。
- 必要なら、エアークントロールレバーを右に引いてポジション3に設定し(2~5分間)、火をつけます(写真8)。
- エアークントロールレバーをポジション1と2の間で調整します。



注 意

火が小さくなり、熾き床もなくなっていたら、もう一度最初から焚き付けを使って火を強めます。
火をつけるとき、煙突から出る煙は透明で、空気がちらちらと翻る程度でなければなりません。
燃料補給のときは、煙が出ないようにドアは慎重に開けます。ストーブ内で勢いよく火が燃えている最中に薪をくべないでください。

注 意

火が燃えている時は、ストーブから目を離さないでください。
運転中は、ストーブのドアは常に閉まっていなければなりません。
運転中のストーブは非常に熱いので、気を付けてください。

制 御

ストーブ内が正しく燃焼しているかどうかを見分けるサイン

- 灰が白い。
- 燃焼室の壁にすすが付いていない。

薪が十分に乾燥していれば、得られる結果です。

警 告

薪が炎や煙を出さずに、ゆっくりと燃えているとき、給気不足が起こると未燃焼の排出ガスが発生します。このガスに点火すると爆発しかねません。そうなると物品の損傷や人身の怪我につながることもあります。ストーブ内に火があるときは、給気を完全にシャットアウトすることは厳禁です。



熾き床がごくわずかになってしまったら、もう一度点火作業から始めなければなりません。
そのまま薪を足すと、火がつかず、未燃焼の排出ガスが発生してしまいます。



炭が少なすぎる熾き床に薪を足してしまった例です。空気の流れが悪いので、空気が不足し、煙が発生しています。



煙の充満は避けましょう。排出ガス爆発の危険があります。
もし煙が充満してしまったときは、ダンパーを開いてから、点火作業をやり直してください。

■ 掃除と手入れ

ガラス

セラミックガラスが使われています。熱に強いですが、外観を保つには掃除が欠かせません。

すすやシミは簡単に落とせますが、長期間放置しておくと、薪から出る酸が悪影響を及ぼし汚れがおちにくくなります。乾燥していない薪、廃材、ペレットは焚かないでください。掃除はストーブが冷えているときにだけ行ってください。

タールやすすがべったり付いてしまったときは、専用のクリーナーを使ってください。

長期的にストーブを焚かなかった場合

しばらくストーブを使わなかった場合は、すみずみまで掃除をして、灰や燃え残った燃料を取り除いてください。ストーブ内の空気の流れが良くなければなりません。そのために、エアークントロールレバーは全開にしてください。

ストーブのシーズンが始まる前に、煙突、ストーブと煙突との連結部が詰まっていないかどうか、チェックしてください。

メンテナンスとスペアパーツ

可動パーツは摩耗します。ドアガスケットは消耗部品で、ストーブシーズン終了後、確認します。

燃焼室のライニング

燃焼室のパーミキュライトは、ストーブ本体を火の熱から保護します。温度差が大きいと、パーミキュライトにヒビが入ることがありますが、ストーブの機能的な能力には影響はありません。長年使用した後、もろく砕けるようにならない限り、交換の必要はありません。パーミキュライトは、差し込んであるだけなので、交換は簡単です。

可動部品

ドアのヒンジやロックは必要に応じて潤滑油を塗ってください。純正の潤滑油スプレー以外は使わないでください。

■ ガラスドアの清掃

掃除を始める前に、ドアをロックします。付属の専用キーを使い、ガラス上方の各サイドにある二つのロックを締めます。



サイドガラスを外すには、サイドガラスの下と上にあるブラケットを出します。



サイドガラスを引いて、ガラスの内側を掃除します。



サイドガラスをロックして、逆の順序でドアを外します。反対側のサイドガラスについても同様な手順を繰り返します。

■ 燃烧室の清掃

ストーブ中央にあるグレートから灰をかき出し、その下にある灰受け皿で灰を受けます。その後灰は非可燃性の容器に入れ、冷まします。冷めた灰は、袋に入れ、自治体の指示に従って処分します。



- 灰を掃除するときは、燃烧室から灰を全部出してしまうってはいけません。
- 薪は、灰が2センチぐらいある方が、最も良く燃えるからです。

■ 煙道の掃除

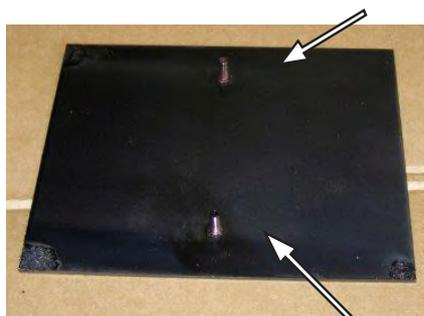
上方のプレート(パーミキュライトとスチール製スモークシケインでできたバッフル板)を外すと煙道が見えます。



慎重にバッフル板を取り外します。後ろ側を上方向に押してください。

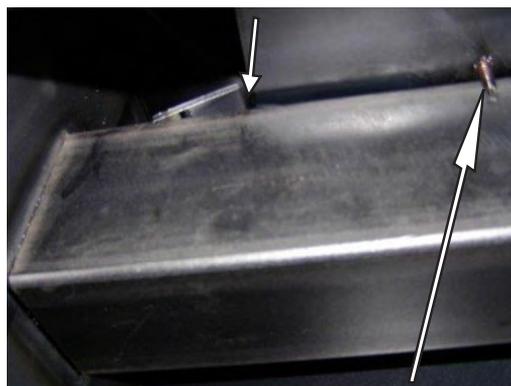
次いで、フロントの端を下げ、慎重にプレートを引き出します。

スモークシケインは二つの溝の上に座っています。前方に向けて押し、傾け、下げて取り外してください。



ゴミやほこりを取り去り、逆の順序でパーツを戻していきます。

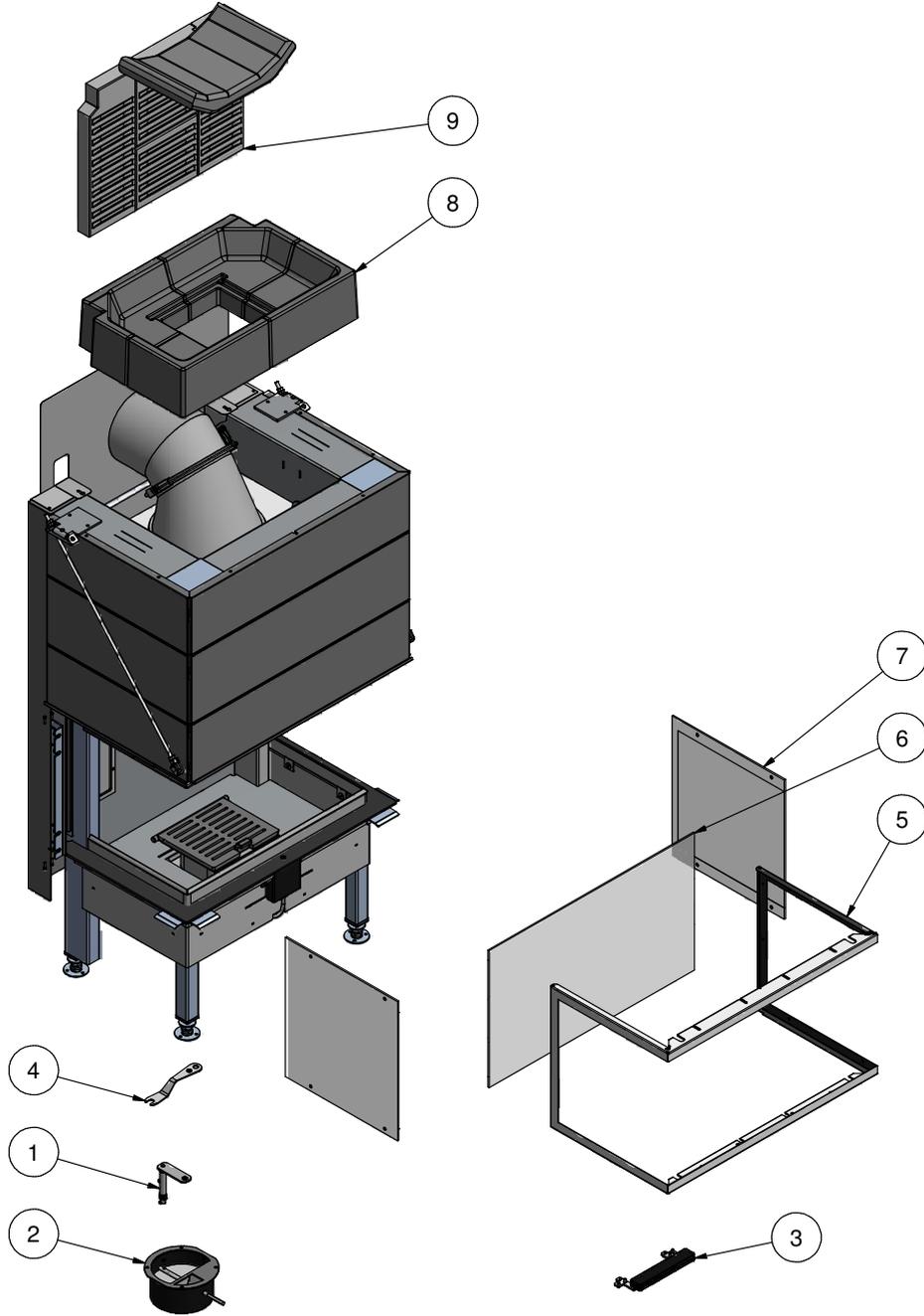
シケインを再び取り付けるときは、ロックングプレートの下にプレートをしっかり入れてください。ピンは下向きでなければなりません。



注 意

バッフルプレートやスモークシケインを戻すときは注意してください。

■ パーツリスト



■トラブルシューティング

ドアから煙がもれていたら

原因は煙突のドラフトが低すぎるのかもしれませんが。

- 煙道や煙突が塞がれていないかチェックしてください。
- キッチンのレンジフードなどの強制排気装置のスイッチが入っているかどうか確認してください。入っていたら、オフにします。それから、ストーブの近くの窓やドアをしばらく開けておいてください。

ガラスにすすが付いた

原因:

- 薪が湿っている。
- エアーコントロールレバーが閉まっている。

火がついても、ドアを閉めるのは、ストーブが十分に熱くなっていることを確認してからにしてください。

ストーブの燃焼が強すぎる

原因:

- ドアのガスケット部分に漏洩がある。
- 煙突のドラフトが強すぎる。

ストーブの燃え方が弱い

原因:

- 薪の量が足りない。 ●煙突が詰まっている。
- 室内の空気が不足。 ●煙突からの漏れ。
- 煙突と煙道の間漏れがある。

煙突内のドラフトが低い

原因:

- 温度差が小さすぎる。 ●外気の温度が高い。 ●無風。
- 煙突が短すぎるor 煙突が風下にある。 ●煙突が塞がっている。 ●高密度住宅。

煙突が冷えている、あるいは天候が悪いというときは、エアーコントロールレバーを開けて、通常よりも多くの新鮮な給気を確保することで、問題が解決することがあります。それでも状況が改善しないときは、販売店に連絡します。

警 告

適切でない薪や湿った薪を使うと、すすが煙突内に過剰に生成され、煙道火災が起こる恐れがあります。

- この場合、ストーブへの外気の給気を遮断します。
- 煙道火災が発生した場合、消防署に連絡してください。
- 水で消そうとすることは、絶対にしてはいけません。
- 販売店に連絡してストーブと煙突を点検します。

重 要

- 安全な燃焼のためには、常に澄んだ黄色い炎と、明るい熾き床が絶えないようにしなければなりません。
- 薪の火はくすぶってはならないものです。

薪が炎や煙を出さず、ゆっくりと燃え給気が不十分であれば、未燃焼ガスが形成されま

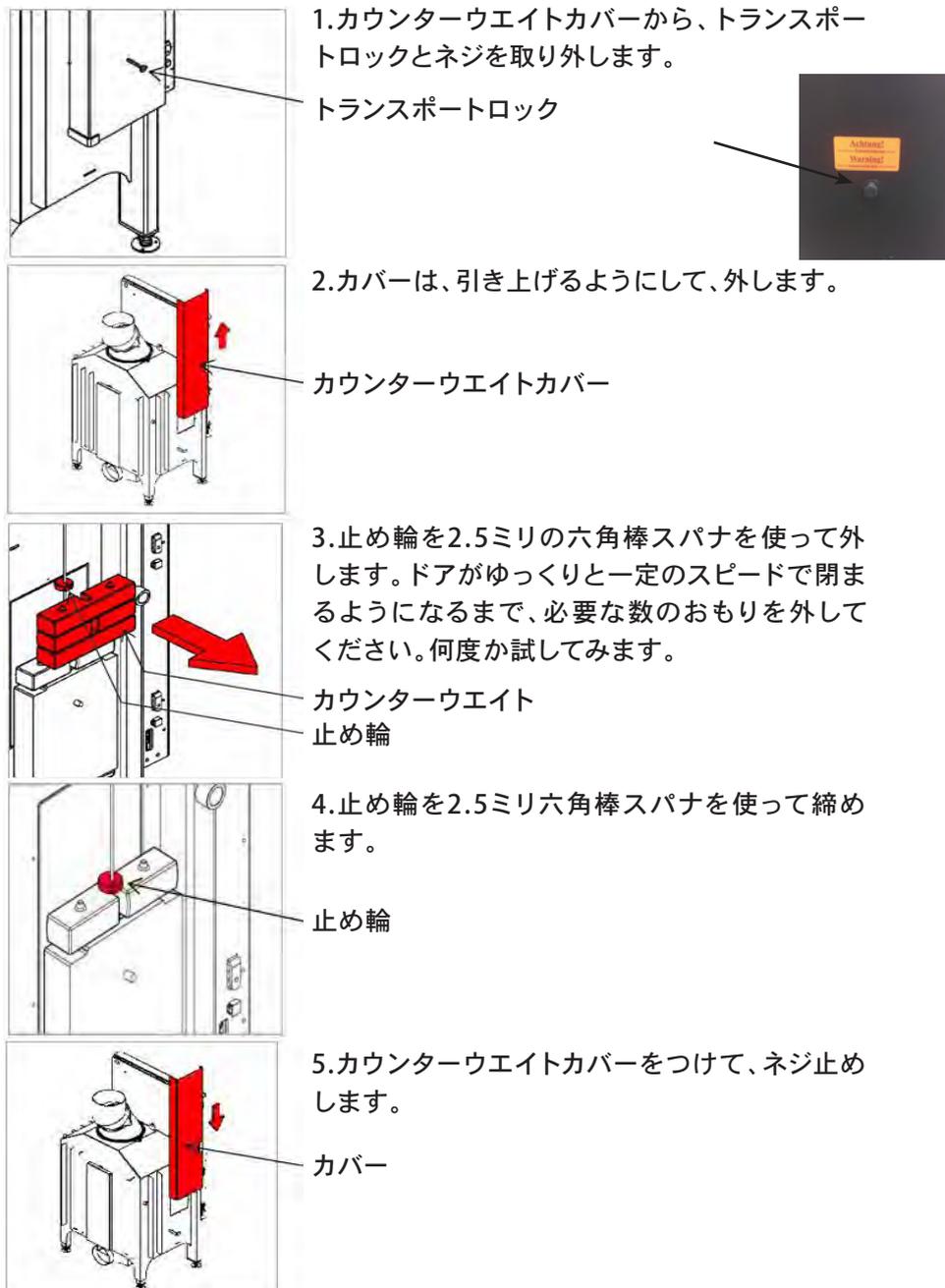
す。
外気ガスは点火し爆発することがあります。結果的に、物質の損傷や怪我につながるかもしれません。

ストーブが燃えているときに、給気を完全に遮断することは絶対にしないでください。

■ 自閉式ドアにする方法

炉をはめ込む前

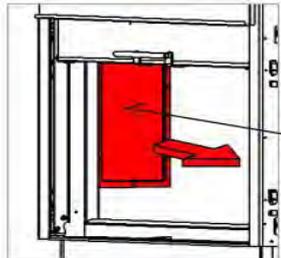
ドアは、「カウンターウエイト」をいくつか外すことで、自動的に閉まるようになります。ビジオ3では、両サイドにあるカウンターウエイトの数を変更します。



炉をはめ込んだ後

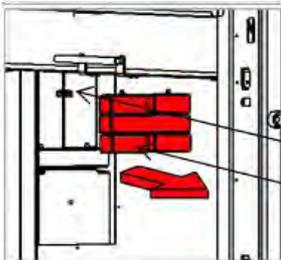


1. サイドの断熱シートを外します。



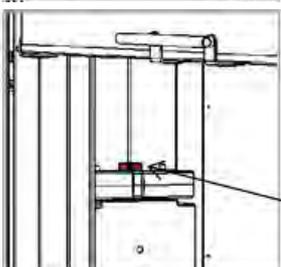
2. アクセスパネルも外します。

アクセスパネル



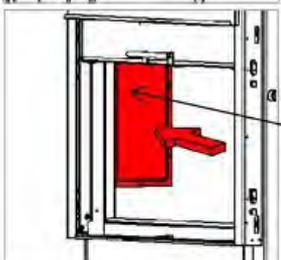
3. 止め輪のネジを、2.5ミリ六角棒スパナを使って外します。ドアがゆっくりと、一定のスピードで閉まるようになるまで、必要な数のおもりを外してください。何度か試してみます。

止め輪
トランスポートロック



4. 止め輪を2.5ミリ六角棒スパナを使って締めます。

止め輪



5. アクセスパネルとサイドある断熱シートを取り付けします。

アクセスカバー



RAIS日本総代理店

ダッチウエストジャパン株式会社

／本社・帯広ショールーム

〒080-0010 北海道帯広市大通南28丁目4

TEL.0155-24-6085 FAX.0155-26-0506

 **0120-700-027** 10:00-17:00
(平日および第1・3・5土曜)

 info@dutchwest.co.jp

<http://www.dutchwest.co.jp>